



1.何故？ 男の子？

パソコンを毎日やるような人は電磁波の影響で男の子は生まれない！

というようなウワサを真面目に信じていたわたしは、妊娠4ヶ月目に「男の子ですね」

といわれ、かなり???? と来た。どうして？ なんで男の子？？ 雄犬を見るのも恥ずかしい人間が男の子を育てられるのだろうか？？

ちなみに妊娠時の男女判定は「○○がついているかどうか」であるのであまりあてになるものではない。「違うかもしれませんよね」というと「いや。ここまでばっちり写っているとまず間違いはないですよ」といわれた。

クタッ

娘の時は同性だから何とかなるような気がした。実際そう違和感はない。

生まれてきてビックリ。身体は確かに男の子なのだけけれど、顔は娘とソックリ見分けがつかない。出産時、メガネもコンタクトもしていなかったわたしは長年「娘を取り違えなかったか」と心配していたが、ここまでソックリなのが生まれてくるとそうした間違いはあり得なそうだと思った。

「ミキとお前は見た目も中身もソックリです。間違えた可能性はありません」

「でもほら、出産の時って唯一メガネもコンタクトも禁止される瞬間じゃない。コンタクトは意識を失った時困るから、メガネは暴れてぶつかって怪我をしたら困るから。誰が何といおうと産んですぐに確認できないっていうのは不安だったよ」

こうした心配を払拭するために、出産前「レーシック手術」。視力回復手術を受けようとも思ったが、旦那に反対され断念。とはいえ取り違いの可能性はなし。ということになり、息子が生まれたことにより長年の心配が一つ減った。

生まれた時のサイズは4キロ近くあり、「巨大児」「糖尿病の恐れあり」、ガマガエルのように大きな声で泣く危険児であった。が、娘と違うのは「飲むものさえ飲めばあとはスコッと寝る」ことであろうか。娘の時は母乳だけで足りたのが、息子の時は母乳プラスミルク。寝た後は規定時刻が過ぎなければ起きず、仕事をする母親にとって非常にありがたい存在であった。娘の時は3歳まで本格的に仕事は再開させなかったけれど、息子の場合は「出産後一ヶ月」で執筆を再開させた。丁度出版依頼が来ていて締め切りが迫っていたからもあるけれど、困ったのは出産後六ヶ月目辺りから。体重が増えなくなり、「アレルギー症状を発症」したあたりから。

「一体何のアレルギーが出ているんだ????」

ハンサムな顔に消えない赤い発疹。左の頬にアレルギーが出るのはヨダレがその方向に常にたれているからであるらしい。

この年齢でアレルギー試験を受けるのは珍しいことなのかもしれない。しかし、食糧源？ である母乳供給者であるわたしが塩ご飯のみしか食べられなくなり、ノイローゼ気味になったことから腕に針を刺し、アレルゲンを中に入れる試験が行われた。

「卵だ……」

その後我が家では「卵なし」のメニューが基本となった。

昔はドーナツの砂糖だけしか舐められなかったのが、現在はドーナツ本体も食べられるよ

うになってきたから、将来的には問題なくなるだろうといわれている。しかし、買うのに高かったのよ！ と無理やりイクラを口に突っ込み全身発疹まみれにした経験から、「本人が食べたがらなければ」食べさせないよう心がけている。とはいえ野菜などアレルギーとは全く関係ない食物に関しては別である。

「千切りキャベツ嫌いだなあ……」

「食べなきゃお菓子抜きだからね」

男の子もまた育てるのは楽しいなあと思う今日この頃。運良く「女の子」「男の子」と生まれ育てる機会を得たことに、ああわたしの人生ラッキーだなあと思う今日この頃なのであります。

2.最初の習い事は「えんぴつランド」

身体につけるものについてはケチケチしない。というのが我が家のモットーである。

何か起こった時に手に持って行くものはあてにならない、でも、身につけた技術はただで一生使うことができる。今の小学校から大学に至るまでの時間はそうした「一人で生きていく」ための勉強をする大切な時間であり、その手伝いをするということはわたしの親としての義務である。

そうした折、息子が「習い事をしたい！」と言い出したのは幼稚園年少の終わりごろのことだった。「えんぴつランド」というあいうえおの書き方を練習する講座が幼稚園で開かれており、それに参加するというのだ。かつて娘もまたこの「えんぴつランド」に参加していた。

「申込みきちんとしておいてね！」

やっていい？ という質問はない。子供の習い事など遊びと一緒に。という証明がされたのは2年以上通ったのにも関わらず、小学校一年生の時、公文の無料体験講座で「すいか」という文字を書けなかったことで判明する。あれれ??? きちんとやっていなかった??? 本人がいうにはタマタマその時だけ「すいか」という文字を忘れていただけだという。かなり怪しい。

その後習い事の勢いは加速する。水泳、空手、公文。気がつけば「週5日間習い事に通う」生活。実になっているのか??? ということは全く分からないが「ハヤト君はそんなに毎日習い事に通って偉いわねえ」と他の人にいわれるのが、彼の存在価値になっているそう。端から見るとアホらしい話だが、そんな生活をもう3年も続けていることを考えると、成果はそうでていなくても努力は認めなくてはいけないように思う。

「今から英才教育？」

「いや、やっぱり、習い事という名の遊びに毎日行っているだけだと」

小学校二年生になった最初の授業参観の壁展示には「今年挑戦すること」と書かれており、息子は「英語・お手伝い」と書いていた。また増やすのか……。一体どこに増やすのかと聞くと「公文の科目を国語・算数に更に英語を足す」のだという。これいじょう学費をかけるのはやめてくれ……。稼ぐ方も大変なんだから……。という声は全然届いていない。

勉強ばかりだけかということ、そうでもない。

習い事から帰ってくれば30分だけでも公園に走って遊びに行くし、家に戻ればパソコンでインターネットを楽しんでいる。

もっとも公文の宿題をやらなければ、1週間お菓子抜きでそのお菓子代はパパのビール代となることに決まっているので、算数5枚、国語5枚の勉強は必要なのだけれど。

学校の宿題はかなりいい加減。あまりやらないでよくわたしに、旦那に怒られる。去年の七夕の短冊には「紺帯になること」と書かれていた。その前の年は「黒帯になること」と書いていたから、徐々に夢に対し現実感を持つようになったのかもしれない。

*黒帯になるには、何段階も試験を受けていかなければいけないので遠い夢になってしまうので、一つ受かれば取れる紺帯としたらしい。

将来の夢はとたずねると「セレブ」と答える。意味も一応分かっているらしい。が、好きな女の子はまだいない。怪しいところであるが、可愛い子がいるとつい「ちゅー」をしてしまう性癖はなくなってきたらしい。根っからのプレイボーイ……。いやいや。本能の赴くままに生きているだけなのかもしれない。

3.空手・落ち慣れる？

やはり男の子というだけあって、勉強系の習い事よりも運動系の習い事の方が好きであるらしい。

空手は礼儀作法も習えるから……。ということもあるけれど、何より帯の色により「競争」があることが大きな特徴であるように思う。強い子とそうでない子にはあつという間に差が出来る。「皆同じ」という小学校の教育とは明らかに違う側面が存在する。

「どうして僕はあんなに頑張ったのに昇級できないの！」

「それじゃあ意味ないじゃん。何のために試験に出たんだ！」

と昇級試験が終わった後は辞める子が多いそうだ。試験に受ければ必ず受かるものだと頭にインプットされているのも恐ろしいが、確かに小学生向けの試験は「誰でも受かる」ものばかり。

そうしたことから、人生ではじめての挫折が空手の昇級試験に落ちることという子供は少なくない。

その衝撃は涙と共に全身に伝わってく。特に順調に昇級してきた子供はそれが信じられない。それを受け入れることができず母親に当り散らす。が、意外と騒いだ子は翌週も元気に練習に訪れる。話を聞くと受かることは勿論なのだけれど、仲間同士練習するのが楽しいので……。という。

息子が初めて空手の試験に落ちた時、ああ、やっとこれで空手のタクシー運転手の役目が終わる。悪い母親であるわたしは理由云々はともかく良かった良かった。これで世界に平和が訪れる……。

が、

息子は泣きも喚きもしなかった。淡々と結果を受け入れ、その日の内に「練習回数」を受かった子供より増やしたのだ。

「ぼくは負けない」

「紺帯になるんだ」

と、大人に混じって声を張り上げ、必死に練習に励む小学一年生の息子の姿には鬼気迫るものがあった。

それを見、驚いたのは「受かった子供達」であり、このままではまずい！ とばかり同じように練習回数を増やしてきた。アレルギーがあるため普通の子供よりも成長が遅く身体が小さい。体格差により、ハヤトの蹴りが敵に届くよりも前に相手の蹴りが届いてしまうのだ。もう少し頭を使って戦術を……。というのはまだできないらしい。試合に出てもパコンパコンと3連発で回し蹴りを受け初戦敗退してくる。悲しいお話であるがこれが現実。

「ハヤトって弱いのか？」

「同年代の子供同士でいえばそうだろうね。でも一学年下なら多分無敵だと思うよ。でも弱い子を倒したって意味ないじゃない。上目指さないよ」

最近では挫折するのも慣れ、昇級試験に落ちた子を慰めるようなこともしない。

黙々と練習に通い時間をかけ、昇級するよう頑張っている。こうなってくると毎回のタクシー役も「送っていくのがイヤだ」というのは非常にいい難くなってくる。こうした態度は親がどうこう教えたものでもなく、気質によるものであるらしい。

4.手下の名前は「メロンちゃん」

娘は「鳥好き」であるが、息子は「犬好き」である。

以前自分の仲間が欲しい！ とペットショップに行ったが値段が高く断念して戻ってきた。何を買おうとしたのかというと「ヨークシャーテリア」だということ。うちに既にいるじゃないか？？ という自分専属のヨークシャーテリアが欲しいのだという。

「わかった。じゃあジュリア君の名前を変えて君の手下にするってのはどう」

「そういうのはジュリアがかわいそうだよ」

変な所で気が回る？ ヨークシャーテリアをカットに出して「別の犬だよー」という技をやってみてはというアイデアも却下。学校から帰ってくれば毎日吠えられる関係にも関わらず、本人はかなりヨークシャーテリアのことを気に入っているらしい。

「全然仲良くないじゃない」

「昼寝をしている時は二人並んで寝ているよ。ヨークシャーテリアは一応ハヤトを守っているつもりらしい。起きている間は敵同士だけどね」

鳥派の娘が散歩を頼まれても、顔はイヤイヤ。おしっことウンチをさせてくればいいんですよ！ とばかり適当にお茶を濁すだけであるけれど、元気一杯の犬派の息子は違う。ダダダダと通常ルート

*円形にノンビリと

ハヤトルート

*ジグザクに4-5倍多く歩き回る

たまらないんだわん。

↑小型犬

流石に疲れるんだわん

↑中型犬

実家では「小型犬」チームは息子と散歩に行くことを完全拒否。中型犬の方も最初はルンルンで出かけるものの、散歩の途中で疲れが見えることもしばしば。縦横無尽に田んぼ内を暴走するのはかなり足腰取られ疲れるらしい。

「……」

「お前は何もいうな。後はもう頼める犬がないんだから」

犬語が分からなくて本当に良かった。

にも関わらず、息子の最初の仲間は「セキセイインコ」となった。理由は……。ただご縁があったということであろうか。

まだ小学校の絵にセキセイインコは登場していないので、玄関には住んでいても、息子の心の中には住んでいないらしい。

5.最強の敵は姉ちゃん

一姫二太郎という言葉がある。簡単にいうと、一人目に女の子で二人目が男の子だと育て易いという言葉だが、親にとってはそうであっても常に上がっている存在というのは子供にとってはたまらないのかもしれない。

うちの娘は年齢が離れており、一人っ子時代が長かったので「下に弟がいる」という感覚は全くない。気を使うこともなければ、相手をすることもない。しかし息子はまるで仔犬のように姉ちゃんを追いかけているのだ。

「ハヤトうざい。あっちに行って！」

ドカーン。バキーン。と容赦なく繰り出されるパンチにキック。

姉とはかくも乱暴な存在なのかと思う。とはいえ腹筋、腕立てが一度もできないプニプニから繰り出される攻撃はさほどの威力を持たない。兄弟喧嘩を乗り越えて子供は大きくなるというが、休日何度も衝突し壁に吹っ飛ばされる息子を見ると「何か間違っていないだろうか」と思う。

「姉ちゃんのそばにいかない！ 公園で遊んできなさい！」

追い払われても、叩かれても、ののしられても。それでも姉ちゃんが好きらしい。

どういう心理状況なのだろう？ と思うのだけれど一人でお菓子を食べるようなことはまずしない。娘のことを常に思いやり、「お菓子あるんだけどなー」と運搬を忘れない。どちらかという一人で過ごすことが好きな娘は日々干渉してきて欲しくない。かくして即「いらない！」と闘いが始まるのだが。筋肉ダルマの息子がその攻撃で泣くようなことはまずない。

別段他の子、親に乱暴にすることはない。弟に対してだけ、強烈に乱暴なのだ。話を聞くとこれは我が家だけの傾向ではないらしい。姉は総じて乱暴？ 現在近所のお母さんたちを中心に統計を急いでいるが、どうもそうした傾向は強いようだ。

「ミキ。そろそろやめておきなさい。ハヤト空手やっているんだよ。今はあんたが強くても逆転される瞬間ってのがあったから。そのときボコスカにやられても遅いんだからね」

「……」

わたしの助言を聞く耳は持っていないらしい。観察していると基本的に息子は防戦一方で姉に攻撃をすることはなく、派手なりアクションで倒れるだけ。とはいえ常にやられるのは気分が良くないだろうに……。弟というのはかくも悲しい存在なのか。踏みつけられても踏みつけられても姉ちゃんが好き。でもこれはいつまで続くのだろうか。見れば見るほど悲しい運命だ。

娘の結婚相手には「姉がいる人」という項目を入れた方がいいかもしてない。暴虐無人な姉に耐えた人間はさぞかし人間ができていようから。

でも考え直してみると、わたしも弟と妹がいたからジャンルの的には「姉」に分類される。

わたしも乱暴だった??? 確かにそうだったかも。

「ミキも大人になれば直る……。多分」

自分のことは棚にあげつつ、息子の苦難の日々は続く。

6.小さな身体、大きな気持ち

姉との暴力関係とは違い、わたしと息子の関係は非常に静かである。お互いに暴力を振るい合うことは勿論なく、重い荷物を持っていれば息子の方が率先して持ってくれ、坂道を歩く時はフラフラのヒールを常にはいているわたしのために転んでも大丈夫なように前を歩き、倒れても大丈夫のように後ろを見ながら、時には手をつないだまま歩いてくれる。結構まめ？ 優しいのだ。

昨年までは一人でベッドに入ることもできなかった。最近は電気をつけたままであれば、一人でベッドでいることができるらしい。姉ちゃんが中学生となり、就寝時間が「九時→十時」と変更となったための処置だが、週末・翌日学校がない日は「今日は十時まで起きていていいかなあ……」と交渉にやって来る。本当は寝たいのだけれど、一人だけ……。というのがイヤなのだ。

「それはまあ構わないけど」

「ヤッター」

毎回聞きにこなくてはいけないのは、姉ちゃんが「わたしが小学生時代は絶対に九時に寝なくてはいけなかったのに、ハヤトはずるい」と譲らないため、一応家庭の中では毎週の恒例行事であっても「パパとママに確認事項」となっている。姉ちゃんの意味に逆らわず、セコセコ笑顔で週末確認に走る息子はやはり心が広いと思う。

そして、今年のお正月のことだ。その時は一歳下の従兄弟がやって来てゴルフクラブを振り回し、ボールを投げて暴走していたことがあった。

さて困ったねえ。迂闊に近づくと怪我をしてしまうし……。放っておきましょう。と顔を見合せていると、親は「あまりいうことを聞かないとこの家に預ける」という。

「わたしは厳しいよー。朝起きたらまず犬の散歩。掃除、片付けが基本。万が一わたしに暴力を振るったら3倍返し、逃げたら5倍、10倍返しと決まっているから」

掃除？ 洗濯？ 理解できない。それはママがやることという顔をして、その後ろに逃げ泣き始めた。

「ママとぼくは2日前から来てずっと片付けとか掃除とか、散歩とか手伝っているよ。自分の家もやってからだから3日連続掃除で疲れているんだよねー。君にそれができる？ できないんだったら……実はご飯が貰えないんだよ」

「散歩も一日三回だからね。ここにいるんだったらきちっと働いてもらう。ワンコたちは散歩を待っているんだから手を抜いたら怒り出すからね。ウンチもきちんと取らないといけないんだよ。これはルールだから」

生まれて初めて？ 言葉で勝つ。従兄弟は理解不能に陥り、ゴルフクラブをバコンと投げた次の瞬間走ってどこかへ行ってしまった。

「最近の子は弱いんだねえ」「掃除なんて簡単なのに」「ウンチがイヤだったのかな」とつぶやく息子。暴力に暴力で返さず成長をしたのか？ 家事を手伝うのが当たり前といううちの考えが間違っているのか？ 一応今日は成長したので……。という結論にしておきたいと思う。

7.趣味は「ホテル」

最近ふと息子にいわれた一言で心に残っているものがある。それは「ママ。最近あまり出かけていないよねえ。そうだ。沖縄でも行こうか」「……」

リーマンショック以後、家計は火の車！ それまでは毎年沖縄、北海道と全国をパタパタ飛び回っていたのでどうもそれが「当たり前だ」と思っているらしい。数年前娘の「1/2成人式」にて「沖縄に行くのが夢だ」と書いている人がいたけれど、そのときの娘のリアクションは、息子とそう変わらず

「行けばいいじゃん」

であった。実は息子は遠出があまり好きではない。家でゴロゴロしている方が好きなのだが、外に出かけて「その土地のものを食べてホテルでゴロゴロする」ことの方が好きなのだ。どうせやることは同じなのだから家で我慢せんか……。と思うが、本人的にはそうではないらしい。

旅行が趣味かというところでもない。ゴルフも好きだし、最近は将棋も始めた。金を投げてグルグル回し将棋でも、箱に駒を入れて「カタッ」と鳴ったら負けの崩し将棋でもない。気がつけば将棋の駒を並べて「本将棋」をしているのだ。

「はい、じゃあお姉ちゃんの番ね！」

戦術を考えるのが好きだというが、娘には漫画を読みながら相手をされても完敗してしまうほどの腕前。やはり脳の発達は年齢と共に高度化するのではないかと思う。それでも下手の横好き。趣味で何をやるかは自由。なのだから

8. アレルギー

息子を5メートル先から見たら普通の子供と変わらない。でも1メートル前で見たら……。肌がガサガサに荒れケミカルな状態になっているのがひと目で分かる。

「アトピーですか？」

「はあ」

何を今更……。という手紙を小学校から毎年いただく。アトピー性皮膚炎だということを今更確認してどうなるのだろう？ と思うのだけれど、病院に行ってサインを貰ってこなくてはならないという。話を聞くと病気の症状があっても病院に連れて行かない親対策なのだという。

アレルギー抑制剤を毎日飲んでも赤むけ状態はそう変わらず、気を抜くと顔にジुकジुकとした膿のような10円玉アレルギー発疹が表れる。どうやら皮膚の薄い部分に現れているようだ。

「うわーハヤト キモイ！」

発疹が顔に表れると空手の仲間からの冷やかしも止らない。ノイローゼにならないかと心配ではあるが、当人は慣れたものらしい。

また時には真っ赤に腫れ上がることもあるので、事情を知らないお母さんたちは「虐待？」と疑う人もいる。表情が微妙に動いた人には面倒でも症状について説明する。テレビやニュースなどでアレルギーについての認識は進んでおり、一度説明さえすればやっぱり虐待では……。と疑う人はいない。

息子には卵アレルギーの他にもおそらくはストレス、湿度、花粉なども影響を及ぼしているらしい。理由は季節によって症状が大きく変わるからだ。「大きくなれば良くなる」というけれど、大きくなってからは自然派のものだけでなく「よりジャンクな身体に良くなさそうなお菓子」を好んで食べるようになり、尚且つ力が強くなったので薄くなった皮膚を爪でガリガリ、ガリガリ。患部に包帯を巻いておかないと血まみれで收拾がつかないという日も少なくない。

「もうちょっと食べるもの気にして」

「えーアイス美味しいしーー」

それじゃあ直らないよ……。沖縄に行って海に入ろうとしても結局皮膚に塩水がしみて「結局波際で遊んでいるだけ」というシーンが頭に浮かぶ。実際昨年度の千葉の海ではそうだった。浮き輪も新調、ラッシュガードも新調したのに最後に海にチャポンと入って「ぎゃーー」。夏前に食生活から改善せねば……。わたしが一生懸命口ハスな食事を作ってもお菓子で破壊されては……。でもこのぐらいの年齢は「身体に悪そうなもの」が美味しいようで。悲しいことに……。何とかして欲しい。何とかしてあげたいのが毎日の悩みであります。

9.パソコンが得意！

我が家では親が仕事で使い、破壊をされると生活に支障が生じるので、マイパソコンが基本である。息子も3歳より中古で一万円のマイパソコンを所有。パソコンを起動させてシャットダウンさせるだけでなく、無線LANカードを刺し、インターネットに接続し、目的のサイトに接続することができる。結構器用である。

「えっと。ノートはどこだったかな」

メールはまだ書けない。ローマ字を習うのは小学校四年生からである。息子が出来るのは「ノートを見て自分の名前を書いたローマ字を見てそれを入力すること」だけである。息子からメールを受け取った人は名前だけで意味が通じる筈はないと思うのだが、コミュニケーションとしては成り立っているらしい。

説明書がないゲームなどはわたしより得意である。時折パソコンを投げる？ ので破壊される日も近いと思うが、息子の最高の楽しみは週末全ての勉強が終わってノンベンタラリンとパソコンの前に座ることだという。暗い……。

10. 将来の夢

折角の機会なので、息子に「将来の夢について一言」聞いてみた。

「君をテーマに文章を書くなどきっとこの先5年はない。折角だからコメントを」
が、

「そんなもの知らないよ。分からないっていつているだろ」

という。夢といってもいろいろあるよ。そう遠いものではなく、たとえば明日の空手の練習で勝ちたいとか、黒帯になりたいとか。例を上げてあまり良く理解ができないらしいが、記憶力は大分ついてきたらしく、「夏の沖縄旅行は進んでいるのか」「ボクのサマーキャンプの予約は終わっているのか」などある日突拍子もなく思い出す。幼稚園頃は言ったことを忘れるのが基本だったのに、大分成長した？ ように思う。

娘に関してはもう12年一緒にいるので、大分将来が見えてきた。

基本的に娘は人付き合いが苦手だ。誰かとキャーキャーやっているよりも一人で本を読んでいることの方が好き。幼稚園の頃はパティシエ。1/2成人式の時「ママの会社を手伝う」。最近イラストの仕事を手伝っていることもあり「イラストレーターになりたい」という。話を聞くとご先祖さんに絵描きさんがいたそうで、その血が出たのでは？ という説も。

「イラストレーターは儲からないよ。それにわたしはあんたが成人したら大学戻ろうと思っているから営業としてあてにされても困るんだよね」

「ママがいないと成り立たない商売を選ぶというのはあまりいい選択ではないと思うけど」

獣医さんなんてどうだろうかという話を今はしている。娘にいえることは、同年代の子供で娘ほど鳥に熟知している人は少ない。このまま鳥専門の勉強を続けて困っている鳥さんを助ける仕事をしてはどうだろうか。と。話がもう大分具体的だ。しかし息子に関してはさっぱり分からない。何が得意なのか、何が好きなのか。いうなれば「何でもそつなくこなしており、大得意がない」のだ。

「お金が好きなんだったらトレーダーとかファンドマネージャーとかそういう仕事もあるけど、数字を追いかけるだけの仕事はつまらないよ」

さっぱり分かりませーん。とインタビューから逃げ回る息子。彼の未来はまだ無限大に広がっているところであり、収束させる必要がないというのが今の所であるらしい。彼の将来がまた少し決まりましたらご報告したいと思います。

最後までお読みいただきましてありがとうございました。